

平成28年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
園芸部門

高品質で実需者の要望に即したカスミソウの出荷による生産性の拡大

○氏名又は名称 立川 幸一、立川 洋子

○所在地 福島県大沼郡昭和村

○出品財 経営（花き）

○概要

・地域の概要

昭和村は、福島県会津地方の西部に位置し、周囲に1,000m級の山々が連なる山間高冷地にある農山村である。総面積は209.34k㎡と広大な面積を有しているが、そのほとんどが急峻な山であり、標高差が大きい。気候は日本海型で、平均気温は11.3℃と低く、冬期間の平均積雪量は160cm、根雪期間も4ヶ月以上に及ぶ特別豪雪地帯である。また、過疎、高齢化が進んでいる。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

立川幸一氏は、平成9年に会社を退職し、妻の実家のある昭和村で夫婦揃って就農し、シュッコンカスミソウの栽培を開始した。平成22年には、JA会津みどりかすみ草専門部会長に就任し、安定出荷・品質保持の対策として予冷室の温度見直しに着手、現行の5～8℃の保管方法を確立した。また、出荷資材の統一、集荷コストの低減等の取組を通じて、平成27年度には村内に2団体あった花き団体の合併に繋げ、産地体制の強化を実現した。

現在は、標高200m、450m、650mのハウス計24棟所有し、積雪期間が長い山間部であっても、標高差を生かした長期出荷を実現し、平成26年は福島県の農業経営基盤強化促進基本方針に掲げる所得目標を大きく上回る成果をあげている。

・受賞者の特色

(1) 収穫時の工夫

シュッコンカスミソウは、品質管理が難しく、特に夏秋産地の昭和村にとって夏場の高温下での作業は、品質を著しく低下させる要因であった。このため、夜明け前の涼しい時間帯に採花作業を行うことにより、時間の確保、品質保持、出荷量の確保、規模拡大を可能とした。また、採花後の調整作業も午前中に終了させることにより、昭和村の雪室を利用した予冷や湿式輸送等の最先端のクールドチェーンによる流通体制の効果を最大限に発揮・活用し、高品質で日持ちの良いカスミソウの全国出荷を可能としている。

(2) 需要の拡大

シュッコンカスミソウは、業務需要が中心であるが、実需者から要望が高い単価が安く長さの短い下位等級の収穫・販売への取り組みや新たな需要獲得のため、染めカスミソウにも取り組み、有利販売や販路拡大に結びつけている。

(3) 女性の活躍

立川夫妻は、栽培管理を幸一氏、出荷調整作業、雇用管理を洋子氏で分担している。洋子氏は、雇用者のシフト管理を行いながら調整作業等の技術指導を行い、出荷ロス低減しつつ品質確保に取り組み、さらに、働きやすい環境を作るため、作業場の管理や定期的な休憩時間を設けるなど、女性の視点から労働環境の改善に努めている。

・普及性と今後の発展方向

昭和村では、産地を維持・発展させるため、カスミソウ栽培体験ワークショップやカスミソウ栽培長期研修を実施し、担い手の確保に努めている。立川夫妻は、それら取組を積極的に行い、非農家出身者としてのアドバイスを実施している。これらの結果、震災以降10人の新規就農者があり、さらに平成28年度は3名が就農している。